

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 376 事業名 骨髄バンク登録事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他	○		
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		保健所費	
	大事業		保健所事業	
	事項		骨髄バンク登録事業	

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	1	地域福祉と健康づくりの推進
施策	5	保健医療対策の推進
取組	2	難病対策の普及・啓発

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	永年	～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	保健対策課	坂東貞次 (433-2261)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず	○
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実			
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実			
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実			
その他		その他		その他			

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容					
事業概要	骨髄バンクドナー登録の啓発活動を行うことにより、ドナー登録者の増加を図る。		献血併行型骨髄バンクドナー登録会を実施し登録の機会を増やして促進に努める。市役所前・中央卸売市場（なべ祭り）等での献血行事に併行して、ひこばえ（和歌山血液疾患患者家族の会）などのボランティアによるドナーバンクへの説明をおこないます。献血で引き続き、HLA型検査を受け（2mlの採血を行います）ドナー登録を実施する。				
	実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともにドナー提供者の拡大を図るため、休日登録会を行った。	対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともにドナー提供者の拡大を図るため、休日登録会を行った。	対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともにドナー提供者の拡大を図るため、休日登録会を行った。			

2 事業コスト

事業費 千円			平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		42	41	42	37	33	18	33			33
	伸び率 (%)		-	-	0.0%		-21.4%		0.0%			0.0%
	人件費	常勤職員	413	2,320	2,320	2,281	2,281	2,296	2,281			2,281
		非常勤職員										
	小計		413	2,320	2,320	2,281	2,281	2,296	2,281			2,281
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源（税等）		42	41	42	37	33	0	33			33	
所要人数	常勤職員	0.05	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3			0.3	
	非常勤職員											

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	献血併行型骨髄バンクドナー登録会の回数					年度目標値	2	2	2	
						実績値	2	2	2	
	単位	全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
						年度目標値				
成果指標	ドナー登録者数					年度目標値	25	25	25	25
						実績値	29	21	15	
	単位	人	全体目標値	25	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	116.0%	84.0%	60.0%
						年度目標値				
						実績値				
	単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度			

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない		制約はあるが可能性はある	○ できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当 B 見直しのうえで継続 C 終了 D 休止 E 廃止	B 1 事業の充実に向けた見直し B 2 コスト削減・成果上昇 B 3 類似事業との統合 B 4 外部委託導入・拡大 B 5 受益者負担の適正化 B 6 終期設定 B 7 その他効率化	担当課評価(所属長記載)
			A

担当課評価の根拠	全国ドナー数の目標設定ですでに県目標が達成されている。 献血併行型骨髄バンクドナーによりコスト削減に努めている。
「見直し」 「改善」案  ※上記、担当課評価が 「B」評価の場合のみ	